

黒崎小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 基礎的・基本的内容を確実に理解させる授業の実践
- ② 児童の伝え合う力を高める授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 松浦 弘子	委員	研修主任:鈴木 美栄子 特別支援教育コーディネーター:野田 慶子	通級指導教室担当:賀川 晴美
		6学年担任:藤倉 紘衣 3学年担任:佐藤 佑麻	4学年担任:平島 唯 2学年担任:青野 仁

校長

猪子 研司 印

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会をとらえ、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 与えられたことはしなければならないと考える児童が多い。 ○ 漢字・計算テストなどに進んで取り組む。 ● 学習の理解や定着に時間を要する児童がいる。	・ 漢字・計算テストで基礎学力を身につける。 ・ 学習の前提である学習の準備も、チェックシートを確認しながら主体的にできる。 ・ ドリルなどでくり返し学習ができる	・ 学習規律を全教員で共通理解し、全校体制で取り組む。 ・ 学習の準備ができていないかを振り返らせるチェックシートを利用する。 ・ 目標に達成するまで、練習問題等を繰り返す行う。	・ 全教員で学習規律について共通理解を図り、学習の準備ができていないかを振り返らせるチェックシートを全学年で活用することで、全校で落ち着いて学習に取り組むことができています。	・ 漢字や計算の基礎学力は8割程度身につけてきている。 ・ チェックリストを活用して、学習の準備ができた。 ・ ドリルやプリント、確認テストを定期的に行い、振り返ることができた。	・ 朝の学習などで、辞書を活用した実践を行う。 ・ 学習規律を共通理解する機会を定期的にもつ。 ・ タブレットで個に応じた学習をする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 進んで課題の解決法を考えようとする児童が多い。 ● 人と異なる意見が言いづらいなど伝え合う力に課題がある。 ● 文章を読み解く力・知識を活用する力が不足している。	・ 自分の考えを持ち、それを相手に分かるように伝えることができる。 ・ 自分の伝え合う力(聞く力・話す力・自分の考えを明確にして発言したり記述したりする力)を振り返り、伸ばしていこうと努力する。 ・ 知識を活用した問題を解くことができる。	・ 生活経験や身に着けた知識をもとに、理由や根拠を明らかにし、筋道を立てて書いたり話したりする活動を設ける。 ・ 自分と友達の意見を比べながら聞いたり、発表したりすることができるようにする。 ・ ホワイトボードなどで、ペアやグループで伝え合う学習を取り入れる。 ・ 活用問題を解く時間を設ける。	・ 自分の考えをしっかりと持ち、理由や根拠を明らかにしながら書いたり話したりする学習を随時取り入れている。 ・ 各学年でタブレットや付箋を使って、グループで話し合う学習を進めている。	・ 教科書の文例などを参考に、書いたり話したりすることができるようになった。 ・ 自分の伝え合う力を伸ばしていこうとする態度が見られた。 ・ 小グループでは伝え合う活動が積極的にできた。 ・ 知識を活用し、判断・表現する力の育成は十分とは言えない。	・ 学年に応じた表現方法を指導していく。 ・ 視写の活動を取り入れる。 ・ ICTを活用した話し合い活動を実践する。 ・ 活用問題の取り入れ方を検討する。 ・ 教科横断的な学びを展開する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 真面目に学習に取り組める児童が多い。 ○ 家庭学習の習慣が身につけている児童が多い。 ● 学力の定着や知識を深めることに結びつくような内容を選択した自主学習ができる児童が少ない。	・ 各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・ 家庭でも進んで学習し、学年に応じた学習時間を確保する。 ・ すすんで本や新聞を読み、読書生活を豊かにする。	・ ICT 機器等を活用して自ら学習を進められるよう、教材研究に努める。 ・ ノート指導を徹底し、「めあて」や「振り返り」を記述させる。 ・ 児童のノートや自主勉を掲示する。 ・ 「家でもしっかり学習しよう週間」を定期的に設定し、家庭学習の達成状況を自覚させる。 ・ たくさん読書をした児童を表彰する場を設ける。	・ 5月と9月に行った「家でもしっかり学習しよう週間」では、9割を超える児童が学年の目標時間以上、家庭学習に取り組むことができた。今後も家庭と連携しながら指導を続けていく。	・ 積極的に学習に取り組むことができた。 ・ 家庭での学習時間を意識できるようになった。 ・ 自主学習が主体的にできた。 ・ 家庭での読書は十分ではない。	・ 体験学習や実験を増やしていく。 ・ 学習計画を立て、見通しを立てて単元学習ができるようになる。 ・ 返されたテストを振り返り、間違えた問題などを自主学習でできるようにする。

令和3年度 学力向上ロードマップ



